

## 電気と人を守る仕事

栃木県立栃木工業高等学校

電気科3年 渡邊珠希

私の家族は電気工事士が多い。だからこそ、電気の大切さと電気を扱うことの大変さを小さい頃から思い知ってきた。電気は手軽に使える上に、使い方次第でとてつもなく強いエネルギーになる。だが、電気が不安定だと、電気機器は簡単に壊れてしまうし、それに人が触れると、簡単に人の命を奪ってしまう。

そのように、時には人を助け、また時には人を苦しめる電気は、発電されてから使われるまで、誰の手も借りていないわけではない。電気を運ぶインフラを整備する人、変電所を管理する人、各施設で電気を監視する人など、様々な人の仕事によって電気は安全に運ばれているのだ。最初に示した通り、私の家族は電気工事士が沢山おり、私自身幼少期から電気工事士に憧れ、きっと将来は電気工事士になるのだろうと思っていた。しかし、工業高校に入学し、電気について今まで以上に深く学ぶにつれて、電気を守っているのは電気工事士だけではないのだと知った。そして、様々な電気の仕事のうち、私は、工場等で電気を保全する仕事に就きたいと夢見るようになった。工場の中でも大工場となると、何千人もの社員が機械を使い、電気も高圧や特別高圧など、とても大きい電気を使用し、管理することになる。そのような環境で万が一事故が起きてしまうと、想像を絶するほどの大損害を起こしてしまう可能性が高い。

私は今年の冬に、人生の目標の一つであった、第一種電気工事士の資格を取得した。本来ならば、そのまま電気工事士になるのが普通だが、私の中で電気工事士は憧れであり、夢ではないのではないかと感じるようになった。では、なにを夢とするのか、決定打となったのは今年の三月に関東電気保安協会が実施してくださった高圧受電設備に関する講習だ。講習を受けるまで、私は電気設備を施工する仕事しか深く知ろうとしなかった。しかし、その講習を経て、それまで知ろうとしなかった、電気設備を点検し、保全する仕事について知り、強い興味を持つことができた。電気設備を不備なく、美しい状態で作り上げる電気工事士の仕事も尊敬し、従事してみたいと感じていたが、その電気設備を点検し、電気と人を守る仕事に従事したいと感じるようになった。

高校生として、現在まで約二年間、私は電気について様々なことを学んできた。その内容は、基礎知識から、電気を学ぼうとしている人しか知らない深い知識など幅広いものである。さらに、残り一年で多くのことを学ぶことができ、電気を扱う上で必要な知識を十分に得られる。その知識を使って、電気設備の保全の仕事に携われば、工場などの多くの社員や、機械の安全を保障することができる。それは、仕事をする中で、かなり大きなやりがいになるはずだ。

私の目標は、20代前半までに第三種電気主任技術者の資格を取得することだ。第三種電気主任技術者を取得すれば、電気設備の保全を自分ですることができる。数千人もの命を背負うのは少し大変そうだが、とても良い社会貢献になり、良い経験にもなる。日本の工業を支える工場の社員を電気事故から守る存在となれるよう、一層努力を続けていきたい。